

2025 年 10 月 14 日

2024 年度南山大学外部評価委員会評価報告書を受理して「学長見解」

学長 ロバート・キサラ

本学は、「南山大学内部質保証規程」および「内部質保証の方針」に基づき、本学の建学の理念の実現に向けて、教育研究や管理運営等に関する自己点検・評価を実施し、教育研究水準を向上させ、自らの責任でその質を保証することに努めています。そして、「南山大学外部評価規程」に基づき、外部評価委員会による外部評価を実施し、自己点検・評価の客観性や妥当性、内部質保証の有効性を高めることに努力しています。また、この外部評価の結果は、「南山大学外部評価規程」第2条第3項に拠り、社会に対して公表するとともに、内部質保証委員会にて活用することとしています。

2024 年度外部評価委員会は、2024 年 11 月 23 日（土）に開催し、本学からは、副学長、各学部長、学長補佐をはじめ、関連組織委員長、関連事務職員が参加をしました。内部質保証委員会委員長である奥田太郎副学長が本学の状況説明を行った後、外部評価委員の皆様から有益なご意見をいただきました。そして、2025 年 3 月に、外部評価委員会から「南山大学の自己点検・評価の客観性・妥当性および質保証の有効性に対する本学の取り組み状況について」および「内部質保証への学生参画について」、外部評価委員会評価報告書をご提出いただきました。

2027 年度に受審を予定している大学評価（認証評価）を見据えて、内部質保証委員会には、提言に対する具体的な改善を進めることを指示いたします。

これらの重要項目について、更なる教育研究水準の向上を図り、自らの責任でその質を保証することに努めてまいります。引き続き、関係者の皆様には、ご協力をお願い申し上げます。

#### 【外部評価委員会による提言】

##### 1、「自己点検・評価の客観性・妥当性」および「内部質保証の有効性」に対する本学の取り組み状況について

- ① 整備された数多くの教学マネジメントの仕組み（PDCA サイクル）を内部質保証の有効性を高めるストーリーとして示すこと
- ② 「標準的な教育の質」と「建学の理念の実現に向けた教育の質」のバランスに配慮して内部質保証を構築すること
- ③ 大学としての個性ある教育の実現プロセスにおいて、社会から求められる DE&I（多様性・公正性・包摂性）の概念に配慮すること
- ④ 全学レベルと学部・学科レベルにおいて、質保証にかかる情報を共有し、内部質保

証の垂直的な展開が図られていること

- ⑤ 学部学科の自己点検・評価（アセスメント活動）を、全学的な組織・部署が支援していること
- ⑥ 教職員や学生に向けて内部質保証の理解を促進するための啓蒙を行うこと
- ⑦ 3つのポリシーを軸に、客観的データに基づく貴学独自の自己点検・評価（「IR に基づく教学状況の自己点検・評価」）を試みていること
- ⑧ 直接指標・間接指標を活用した評価にあたって、シラバスの到達目標を起点とした学修成果の測定に配慮すること
- ⑨ 学修成果に関して数値指標に現れない成果を考慮した評価システムにも配慮すること

## 2、内部質保証への学生参画について

- ① 学生との信頼関係の構築から始めること
- ② 学生の主体的な参画意識の醸成に努めること
- ③ 学生の成長に資する教育を展開するために、教育・学習の工夫・改善に注目した学生参画、意見聴取から始めること
- ④ 将来的に、内部質保証の参画が学生の成長に資する仕組みとして機能するよう配慮すること

### 【外部評価委員会による評価と提言を受けた改善策】

## 1、「自己点検・評価の客観性・妥当性」および「内部質保証の有効性」に対する本学の取り組み状況について

### (1) 新しい内部質保証体制下での、学部・学科間の質保証に係る取り組みの水平展開

内部質保証委員会および2025年度より新設された教学マネジメント推進委員会を通じて、学部・学科との対話を通じて連携を強め、内部質保証システムの有効性を高めるとともに、教育の実質的な質保証を目指します。内部質保証委員会において全学的な方向性等の垂直展開を行い、教学マネジメント推進委員会において、学部・学科間での現状や取り組み事例の共有、すなわち水平展開を行います。また、建学の理念と本学の教育理念にかかわる「宗教性の涵養」および「国際性の涵養」を視野に入れた全学的なFD企画の実施を検討します。

### (2) 教育の質保証における各種アセスメントの取り組みの推進および自己点検・評価の実質化

2025年度の全学および学部のアセスメントプランを策定しました。今後は、3つのポリシーを軸としたアセスメントプランに基づき、各種アセスメントの結果や、大学レベ

ルおよび学部・学科レベルで行った自己点検・評価の結果を、各レベルで把握・分析し、改善・向上へ繋げるといった、PDCA サイクルを確立するとともに、IR 推進室の新たな体制の検討を進めます。2024 年度より導入した各種アセスメント結果に基づく自己点検・評価や、大学基準等の点検項目に係る自己点検・評価を実質化させるべく、南山大学として個性のある教育の実現を目指します。質保証の起点は、シラバスに示した到達目標であることを意識しながら、多面的に学修成果の可視化を行うとともに、認証評価と補助金獲得も見据え、各種取り組みの整理をはじめ、内部質保証システム自体の改善・実践を図ります。

## 2、内部質保証への学生参画について

### (1) 教育の質保証や大学運営に学生が参画する仕組みを構築する

2024 年度末から、学生参画制度構築のための基盤形成として、既存の制度を利用して学生の意見を聴取し、教育の質保証や大学運営の方針への反映を検討する試みをスタートさせました。今後は、本学の実情をふまえつつ、学生が参画する場面やその程度、本学的意思決定プロセスにおける反映の方法等を検討し、建設的な仕組みづくりの検討を進めます。また、学生の多様性を踏まえつつ、単に学生の意見を「受け身」的に求めるのではなく、学生と教職員が協働し大学を創り上げることを目指すとともに、学生の成長に資する仕組みとして機能するような制度の構築を推進します。

以上